

義務化から2年



大切な「命」と「財産」を
守るために…

特集

もう付けましたか？

住宅用 火災警報器

平成20年6月から、市内のすべての住宅に「住宅用火災警報器」の設置が義務付けされたのをご存知でしょうか？

それから2年が経ちますが、まだ設置していないという方もたくさんいるのではないのでしょうか？

住宅火災で亡くなった方の約6割は「逃げ遅れ」が原因です。住宅用火災警報器の設置は、火災を早期発見し、避難に有効な手段となります。火災は私たちの命や財産すべてを奪ってしまいます。「こんなことなら設置しておけばよかった・・・」では遅いのです。

今月号では、住宅用火災警報器の必要性を考えながら、すぐに役立つ情報をお届けします。

〈普及率〉

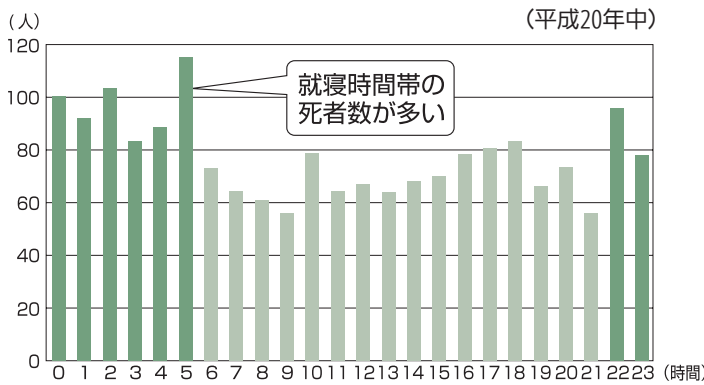
全国（平均）……52.0%
石川県（平均）…72.8%
七尾鹿島広域圏…67.4%
（平均）

〈設置の義務化〉

◎新築住宅…
平成18年6月1日以降に
建てた住宅
◎既存住宅…
平成20年6月から（石川県）



【図1】 ■時間帯別の火災による死者の発生状況

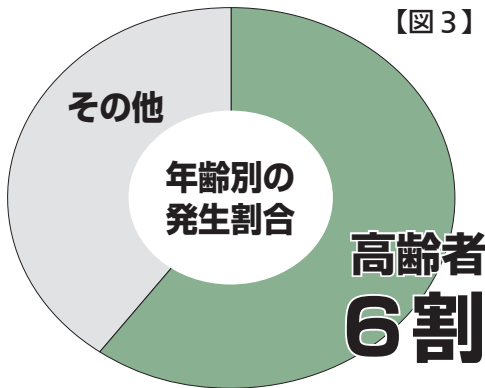


住宅火災による死者は、平成15年以降全国で毎年1千人を超えています。火災は就寝時間帯に多く発生(図1参照)し、死に至った原因の6割は「逃げ遅れ」(図2参照)、死者の約6割が「高齢者」(図3参照)です。つまり、火災に早めに気が付いていれば、亡くならず済んだ方も少なくなかったということです。そうした命を守るために、住宅用火災警報器の設置が義務化されたのです。

なぜ設置するの?

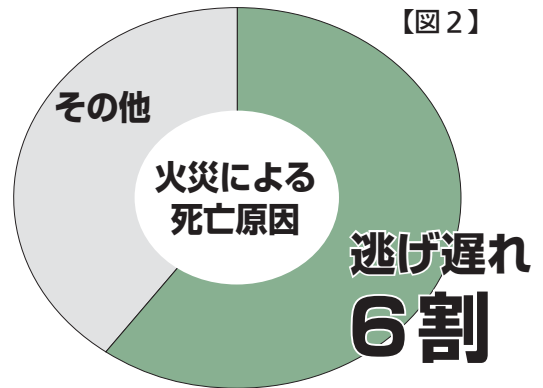
■死者の約6割が「高齢者」

【図3】



■死亡原因の約6割が「逃げ遅れ」

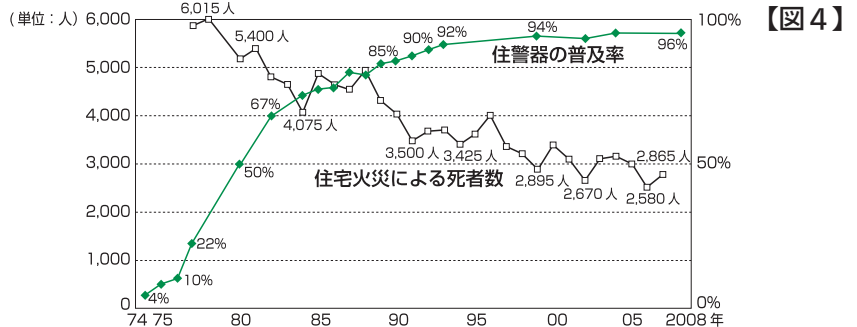
【図2】



早くから住宅用火災警報器などの設置が義務化され、普及率が90%を超えるアメリカでは、約20年間で火災による死者が半分に減少しました(図4参照)。イギリスでも同様の結果が報告されています。これらのことから、住宅用火災警報器の設置による効果は明らかです。

設置の効果は

■アメリカにおける住警器の普及率と住宅火災による死者数の推移



アメリカでは、1970年代後半から住宅用火災警報器の設置が国家的方針となり、州法で義務づけ。普及に伴い、住宅火災による死者数は、70年代後半の約6千人から90年代後半の約3千人に半減。

煙式警報器



煙を感知するものです。通常はこちらを設置します。

熱式警報器



一定の温度(熱)を感知するものです。煙や蒸気がたまる恐れがある台所などに設置します。

住宅用火災警報器は、煙または熱を自動的に感知し、警報音や音声で火災発生を早期に知らせるものです。煙を感知する「煙式」と熱を感知する「熱式」があり、煙式、熱式ともに「電池を使うもの」や「家庭用電源(AC100V)を使うもの」があります。

1台の火災警報器が火災を感知すると、住宅内に設置した全ての火災警報器が連動して警報音を発するものもあります。

住宅用火災警報器とは